

患者体験調査結果について

保健・疾病対策課
R4.3.12

1 調査目的

第3期がん対策推進基本計画(H29.10)、長野県がん対策推進計画(H30.3)

◆全体目標(国・県)

- (1) 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- (2) 患者本位のがん医療の実現
- (3) 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

◆全体数値目標(県)(出典:H27患者体験調査)

尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けたと考えているがん患者の割合
→全国 80.7% 県 81.3% (県内3病院)

患者体験調査

- ・ 拠点病院等を受診した患者に対して、診断時・治療時・就労等についてアンケート調査
(例: 医療者と十分な対話ができただか、治療における希望を尊重してくれたか等)
- ・ 調査結果を国、県共通の全体目標における評価指標として活用する
→同調査の結果は、県計画の全体数値目標にも設定されている

2 調査概要

実 施

平成30年、令和元年(県追加調査)

対象病院

全国の拠点病院: 166施設(県追加調査施設除外)

本県の調査施設: 12施設…信大病院、佐久医療、長野日赤、信州上田、あづみ、北信総合
伊那中央、飯田市立、諏訪日赤、相澤、長野市民、県立木曾(下線はR1実施)

対象者

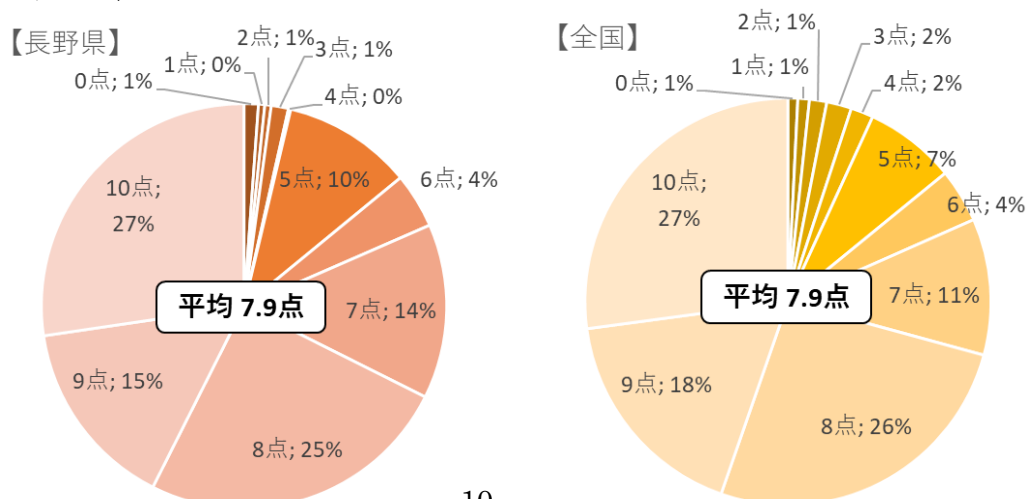
2016年院内がん登録当時19歳以上の全悪性腫瘍患者とその家族(全国: 7,080名、県: 526名)

結果概要(※無回答除外)

※網掛けは全国値と比較して優位な値

分類	質問(一部)	長野県	全国	備考
受けた医療に関する評価	納得いく治療選択ができた人	81.6%	79.0%	
	専門的な医療を受けられたと思う人	80.2%	78.7%	
	これまで受けた治療に納得している人	75.5%	77.3%	
	総合的な評価結果(0-10点)	7.9点	7.9点	

〈総合的な評価結果〉



分類	質問（一部）	長野県	全国	備考
医療者側の説明・対応	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた人	79.3%	75.0%	
	治療開始前に、担当医からセカンドオピニオンについて話があった人	42.2%	34.9%	
	治療開始前に、妊孕性への影響に関して医師から説明があった人	54.7%	52.0%	40歳未満対象
	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた人	77.1%	75.1%	
	治療による副作用の予測などに関し見通しを持てた人	66.3%	61.9%	
社会とのつながり	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる人	72.3%	70.5%	本人回答
	がんになったことで、家族に負担（迷惑）をかけていると感じる人	44.7%	47.2%	本人回答
	がんになったことで、家族以外の周囲の人に負担(迷惑)をかけていると感じる人	22.2%	21.4%	本人回答
	がんと診断されてから周囲に不必要に気を使われていると感じる人	10.7%	12.3%	本人回答
	(家族以外の) 周囲の人からがんに対する偏見を感じる人	3.5%	5.3%	本人回答
相談支援	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う人	49.6%	47.7%	
	がん相談支援センターを知っている人	68.1%	66.4%	
	ピアサポートを知っている人	28.5%	27.3%	
仕事に関する体験	がん診断時に収入のある仕事をしていた人	50.9%	44.2%	
	診断時に働いていた職場や仕事上の関係者にがんと診断されたことを話した人	76.1%	81%	診断時就業者
	職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと思う人	67.7%	65%	診断時就業者
	治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人	39.6%	39.5%	診断時就業者

※県数値算出方法：H30 調査・R01 調査対象医療機関（全 12 医療機関）の集計結果より、「補正值」の代表数の合計から「無回答」回答数を除いた数を分母として割合を算出。

※県別結果はサンプル数が少なく、全国値に比較すると不安定な値のため参考値として扱う。